

➤ ムゲン(MUGEN、漢字表記:緑族無限) = 香港

せん 6 歳・栗毛(オーストラリア産・2018 年 11 月 7 日生まれ)

父:Deep Field = 母:Little Favours(母の父:Falvelon)

馬主 : インフィニテュード・シンジケート

調教師 : パンチー・ン

騎手 : カリス・ティータン

戦績 : 全 13 戦 5 勝、2 着 2 回、3 着 3 回

総獲得賞金: 約 1 億 8,830 万円

主な戦績 : '24 プレミアカップ(G3) 1 着

'24 チェアマンズスプリントプライズ(G1) 3 着

ムゲンはオーストラリアのカタリーナ・パストラル社の生産馬で、2020 年のメルボルン・プレミア・イヤリング・セールに上場され、アッパー・ブラッドストック社が 16 万豪ドル(当時約 1,220 万円)で購入。クリントン・マクドナルド厩舎に入厩し、オーストラリアで 2 戦した後、香港に移籍して現在の馬主、調教師となりました。

父はノーザンダンサー系のディープフィールド(その父ノーザンミーティア)で、現役時にオーストラリアにおいて 1,100~1,200m で G2 勝ちを含む 5 勝。主な産駒に本馬や今年の安田記念で来日したヴォイツジバブル、2021 年香港スプリント優勝のスカイフィールド、2023 年キングスプレート(南アフリカ)勝ちのアルムサナがいます。母のリトルフェイヴァース(その父ファルヴェロン)はオーストラリアの 800~1,050m で 4 勝し、リステッド競走で 3 着の実績があります。本馬の半姉のストラヴェイン(父ストレイタム)は 1,000~1,100m で 4 勝、半兄のリトル(父リトゥンタイクーン)は 860~1,110m で 7 勝(2023/2024 年シーズン終了時点)。曾祖母のトワイニングはブラッドホースブリーダーズプレート(G2)1 着、ブルーダイヤモンドステークスなど G1 で 3 着 2 回、その他の主な近親にゴールドスリッパーステークス(G1)2 着のハウファニーがいます。

ムゲンは 4 歳時の 2022 年 11 月にオーストラリア・サンダウン競馬場の芝 1,200m 戦で 2 着とした後、翌月の 2 戦目(ムーニーバレー、芝 1,200m)を差し切って 4 馬身差の勝利を収めました。その後香港に渡って、2023 年 7 月 1 日に現地初戦を Z. パートン騎手を鞍上にクラス 3 ハンデ戦(シャティン、芝 1,200m)で迎えますが、後方から馬群を捌きながら伸びて 2 馬身 1/4 差の 6 着。以降は全てシャティンの芝レースを使い、同じくパートン騎手鞍上で出走した 7 月 16 日のクラス 3 ハンデ戦(シャティン、芝 1,200m)は後方でレースを進めましたが、直線で見せ場なく 10 馬身以上離れた 11 着でレースを終えました。

2023/2024 年シーズンに入り、昨年 11 月のクラス 3 ハンデ戦(芝 1,200m)で始動すると、K. ティータン騎手を鞍上に後方から内の馬群を割るように伸び、ゴール前で半馬身差し切って香港初勝利を飾りました。ここは 3 番人気、上がりタイムは 33 秒 63 でした。続く 12 月のクラス 3 ハンデ戦(芝 1,200m)も後方から直線で外に持ち出されると、上がり 33 秒 27 の豪脚を繰り出して 2 着のヴンダバーに 2 馬身 1/4 差をつけ、1 番人気に応えました。

年が明けて 1 月 1 日のクラス 3 ハンデ戦(芝 1,200m)も後方からよく伸びましたが、スローペースやトップハンデ(61kg)が災いして勝ったヴンダバーから 3 馬身半差の 3 着まで。3 週後のクラス 2 ハンデ戦(2 番人気)は初距離となる 1,400m 戦でしたが、最後方待機から馬群を縫うように伸びて(上がり 34 秒 11)、残り 50m で先頭に立つと後続に 2 馬身の差をつけて勝利。さらにクラスを上げた 2 月 12 日のクラス 1 ハンデ戦(芝 1,400m)は軽ハンデ(52kg)もあって 1 番人気に推され、この後のチャンピオンズマイル(G1)で 2 着に好走するレッドライオンに迫りましたが、ク

ビ差届かず 2 着でした。

ここまでの 5 戦で手綱を取ったティータン騎手から H. ボウマン騎手にスイッチとなった 3 月 31 日のクラス 2 ハンデ戦は初の 1,600m 戦ながら 1 番人気に支持され、後方 2 番手から徐々に前との差を詰めたものの、距離が長かったせいともう一段階ギアが上がらず 1 馬身 3/4 差の 3 着でした。次いで向かったのが 4 月 28 日のチェアマンズスプリントプライズ(芝 1,200m)。初重賞が G1 の舞台となりましたが、ここは 5 番人気(日本での発売は 6 番人気)の支持を受けました。初コンビの B. シン騎手を背に、これも初となる稍重馬場の一戦となり、先行した上位 2 頭には及ばなかったものの、最後方から 34 秒 35 の末脚で 3 着に入線しました。

続く 6 月 2 日のシャティンヴァーズ(G3、芝 1,200m)はハンデ 52kg で 3 番人気での出走となり、テン乗りの H. ベントレー騎手とともに最後方から直線勝負に賭けましたが、2 馬身 3/4 まで差を詰めるのが精一杯で 4 着でした。シーズン最終戦となった 3 週後のプレミアカップ(G3、芝 1,400m)は、ティータン騎手に戻ってハンデ 52kg の 2 番人気となり、最後方から馬群の真ん中を抜けて、逃げた 1 番人気トップハンデのカリフォルニアスパングル(61kg)に迫り、残り 50m でこれをとらえると最後はクビ差だけ先着しました。上がり 34 秒 53 の末脚でゴールを駆け抜けたムゲンについて、レース後、調教師は同馬のさらなる成長に期待しつつ、スプリンターズステークスが選択肢にあることを示唆しました。

ムゲンの通算成績は 13 戦 5 勝、2 着 2 回、3 着 3 回で、オーストラリアでのデビュー戦で重馬場だった(2 着)以外は、すべて良~稍重での出走です。右回りでは 11 戦 4 勝、2 着 1 回、3 着 3 回。芝の 1,200m では 9 戦 3 勝、2 着 1 回、3 着 2 回、持ち時計は 6 月 2 日のシャティンヴァーズにおける 1 分 8 秒 4(良馬場)。2023/2024 年シーズン終了時点の香港ジョッキークラブによるレーティングは 110 です。シーズン終了後もシャティンに留まり、8 月から調教を本格化させ、ここまで 8 本の追い切りを消化。9 月 3 日のバリアトライアル(オールウェザー 1,200m)ではティータン騎手が騎乗して、70 秒 52(4F: 46.2 - 2F: 22.8)のタイムで先頭でフィニッシュ。9 月 12 日のバリアトライアル(オールウェザー 1,200m)でも同騎手を鞍上に、ビクターザウイナーから 1 馬身 3/4 差の 7 着(1 分 9 秒 89)でした。

◇ 馬主:インフィニテュード・シンジケート(Infinitude Syndicate / 漢字表記:傲風團體)

インフィニテュード・シンジケートはラウ・ヒンファイ(劉慶輝)氏、ライ・チョンミン(黎仲明)氏、ウォン・ワートン(黃華東)氏を中心に 6 名の会員から成る馬主組織です。本名義では本馬のほかに過去 2 頭を所有し、うち 1 頭はチャイニーズクラブチャレンジカップ(G3)の勝馬で、香港クラシックマイル、香港クラシックカップ、香港スプリント(G1)でそれぞれ 3 着、2017 年のスプリンターズステークス、2018 年の高松宮記念(ともに 5 着)で来日したブリザードです。

また、個人名義で競走馬を保有している会員もいます。

◇ 調教師:パンチー・ン(“Pierre” Pang Chi Ng / 漢字表記:伍鵬志)

1983 年 8 月 2 日生まれ。父(伍碧權)は香港競馬の元調教師です。若い頃からオーストラリアのデビッド・ヘイズ、クリス・ウォーラーらの厩舎で研鑽を重ねたほか、ニューサウスウェールズ大学では安全科学と日本研究の理学士号も取得しました。また、ニュージーランドやアイルランド、そして日本でも 1 歳馬の調教に携わるなど、世界各国で経験を積みました。その後香港に戻り、2007 年に父の厩舎の攻馬手になると、2013 年からはポール・オサリバン厩舎の調教助手を務め、同厩舎のエアロヴェロシティが高松宮記念(優勝)で来日した際は帯同しています。その後も、ジョン・サイズ厩舎、キンワイ・ルイ厩舎で調教助手を務めました。

2022/2023 年シーズンに自身の厩舎を開業すると、511 戦 41 勝でリーディング 10 位とブレイクを果たします。その勢いは 2 年目の 2023/2024 年シーズンに入ってさらに加速し、かつて助手を務めたルイ師との熾烈なリーディング争いがシーズン最終日まで繰り広げられ、わずか 1 勝差の 69 勝で 2 位となりました。今年 5 月には早くも通算 100 勝を達成し、J. サイズ調教師、F. ロー調教師、I. アラン元調教師に次ぐ早さでの大台到達となりました。これまでの重賞 4 勝はすべて 2024 年のもので、本馬のプレミアカップ(G3)のほかに、チャイニーズクラブチャレンジカップ(G3、タージドラゴン)、ライオンロックトロフィー・プレミアプレート(ともに G3、ギャラクシーパッチ)があります。

◇ 騎手:カリス・ティータン(Karis Teetan / 漢字表記:田泰安)

1990 年 6 月 3 日生まれ。アフリカの東部マダガスカル島の東に位置するモーリシャス出身。14 歳で南アフリカのジョッキアカデミーに入学し、2006 年に南アフリカで騎手免許を取得しました。2007/2008 年シーズンに見習騎手リーディングに輝くと、2010/2011 年シーズンからは 3 季連続でリーディングトップ 10 に入り、2012 年のケープダービーやパドックステークスなどの G1 タイトルを獲得しました。

2013/2014 年シーズンに香港に拠点を移すと、早速リーディング 4 位と頭角を現し、以降も 2014/2015 年シーズンを除いて毎シーズン 5 位以内を維持、香港のトップ騎手として確たる地位を築いています。シーズン勝利数は 2019/2020 年シーズンの 93 勝が最高。直近の 2023/2024 年シーズンはシャティンヴァーズやプレミアカップ(ともに G3)を含む 86 勝で、リーディング順位はこれまでで最高となる 2 位でした。香港での通算勝利数は節目の 700 を目前にしています。

香港での主なタイトルに、2015 年香港クラシックカップ(サンダーファンタジー)、2018 年香港スプリント(G1)、2020 年チェアマンズスプリントプライズ(G1)(ともにミスタースタニング)、2021 年香港チャンピオンズ&チャターカップ(G1)(パンフィールド)、2022 年香港クラシックマイル、香港ダービー、クイーンエリザベス II 世カップ(G1)(いずれもロマンチックウォリアー)などがあります。

日本での初騎乗は短期免許を取得した2016年で、翌年も夏に短期免許で騎乗。2018年には香港馬ブリザードと高松宮記念に挑んで5着でした。2019年以来の来日参戦となった今年8月のワールドオールスタージョッキーズでは1、11、9、6着で総合5位タイ。JRA通算成績はここまで96戦10勝。重賞には6回騎乗して2016年クイーンステークス(GIII)4着(レッドリヴェール)が最高です。